

子孫の誇り 子孫のパワー

後藤王重 ごとうきみえ

チャンネル ティーチャー スピリチュアル・カウンセラー ヒーラー

プラシタス ニューメキシコ

メール harmonion@gmail.com

WEB www.harmonion.com/japanese.html

フェイスブック www.facebook.com/profile.php?id=100000536784231

Preface

子孫は祖先に 未来は過去に。 失ったパワーを思い出す。 祖霊のパワーが使えるようになる。 いまはそのプロセスの最中で、自己は永遠に流れる水のように感じる。永遠に流れ続け、最終到達地もない。 永遠の進化を続けている。 だから、毎日の生活を生ききりながら、どんどん進化を続けていきたい。 1回の人生には寿命がある。 毎日の人生を生ききること。 その繰り返しでいいと想っている。

目次

子孫の誇り 子孫のパワー	1
--------------------	---

Preface	1
目次	1
伊勢外宮 豊受大神 荒御霊？	3
住吉大社 住吉大神 開闢	4
尾張一宮 真清田神社 あめのほあかり	5
葛城山 金剛山 土蜘蛛 海蜘蛛.....	8
高天彦神社 高天彦のパワー	10
もののべ Flying Deer 満月の夜に飛ぶ鹿	13
子孫の誇り 子孫のパワー	14
うつつぽい気分 人生にいきづまった感じがする時	15
目の動き	15
Worrier to Warrior 心配者から勇者へ変身.....	16
ナマスデ 感謝.....	17

伊勢外宮 豊受大神 荒御霊？



伊勢外宮 豊受 とゆけ大神 荒御霊社で映った写真

エンジェルのような羽がはえた宇宙人のような感じ。

とゆけ大神に羽があって飛んだというのは、うなずける感じです。

写真のイメージからすると、スーパーパワー 宇宙的なパワーも感じます。

神、天狗、天使・・・羽のはえた Being 存在の呼び方はいろいろと想います。

自分にも羽のようなものがあって、高く飛ぶことがあります。

日本列島全体を上から観ていたり、屋根の上くらいの高さまであがっていることもあります。

羽のはえた Being（神、天狗、天使）は、昔はあたりまえにひとびとと共棲していたと感じるし、自分も必要があれば空を飛ぶことはしていたと想います。

現世生まれ変わって、ひとの意識が発達をして、少なくともエナジエティックには、テレポー
ト（瞬間移動）をして、いかなる次元、時間、場所にも、意識は行く能力は戻ってきたと感じ
ています。

豊受大神のようなご存在たちにも、助けられていると想います。

住吉大社 住吉大神 開闢



開闢

宇宙が開闢したときからのパワーをわたしたちは引き継ぎ持っている。

写真は 大阪 住吉大社 橋です。

異界（エネルギー、宇宙、霊界）とこの世をつなぐ橋とされます。

わたし（たち）は、27界、28界にいったことがあるようなので、宇宙はすくなくとも27界、
28界はあるのだと思います。

細い渡り廊下、橋のようなものがありました。落ちたらまっさかさまに怖そうです。

おじいさんのようなゲートキーパーがおられて、スマイル 優しく 渡れるように見守っていて
くださるのか、あるいは渡れないたましいは、この橋をわたらないように Watch 観ている
のか？ 無理して渡って落ちたら無事ではすまなさそうな、細くて高いところにある橋 渡り
道のようにありました。回りにはあまり誰もいない、というか、おじいさんとわたし（たち）
だけだったような。

宇宙の世界 あるいは意識の世界に深く踏み込んでいくと、たしかにだんだんひと（たましい）
はいなくなるかもしれないですね。それなりに危険はあるようで、門番のようなスピリッ
ト・ガイドはいて、それなりのスキルを持ったたましいがはいれるようになっているようです。

尾張一宮 真清田神社 あめのほあかり



尾張一宮 真清田神社

あめのほあかり（の荒御霊）のような存在が観える。

ペルシャ顔 甲冑 右手に剣 後背のようなもの ガルーダのような鳥にのっている。

にぎはやひ あめのほあかり おおものぬし は同じエネルギーを違う名前と呼んだのかもしれません。

We are One. We are connected. 祖霊 先祖 現代に生きるわたしたち 子孫 みなつながっていて、みなひとつ。

わたしたちひとりひとりに うぶすな（産土）があります。 うぶすなには、その土地を愛し、護ってきた祖霊がおられます。

わたしにとってその祖霊は、あめのほあかり にぎはやひ おおものぬし くにのそこたちに
なります。 同じもの（魂）を違う名前と呼んでいると想います。 この方は、日であり、火、
蛇でもあります。 生命のマジックもつかさどっておられるようです。

祖霊の子孫として誇りを持って生きたいです。 宇宙 ひかり 地球と直接つながって生きる
ことをしたいです。 直接エネルギー、情報、アドバイスを頂き、オリジナルの人生を歩みた
いと願っています。

人生は Entrepreneurship 起業に似ていると想います。 ほかのまねではなく、オリジナル
であること。 それが起業です。 人生も同じと感じます。 ほかのひとのまねではなく、オ
リジナルであること。 ひとりひとりオリジナルな人間だから。 オリジナルな人間で、オリ
ジナル（独創的、ユニーク）な人生があります。

あめのほあかり にぎはやひ おおものぬしの子孫として生きる。 祖霊のパワーは強い。
わたしたちは、祖霊の子孫で、祖霊のパワーはすでに持っている。 持って生まれている。
たましいが宿している祖霊のパワーを全開したい。

愛と叡智、勇気を持って生きたい。 オリジナルな人生を歩みたい。

もの（魂）は、たましい（魂）で、たとえばおおものぬしのパワーは、たましいは既に宿して
いる。 おおものぬしのパワーは、剣のパワーであり、蛇のパワー。 叡智、英断、勇気、癒
し、変容の能力。 マジック。

わたしたちのたましいはものである、わたしたちは、剣であり蛇である。 火であり日である。 イカヅチである。

葛城山 金剛山 土蜘蛛 海蜘蛛



高天彦神社の近く 蜘蛛塚

奈良 葛城山 金剛山は かか（銅？）が出ると想うので、古くから金属の技術集団が、大陸から移住して住んでいたと想う。

土蜘蛛のひとつは ひかりて尾あり （日本書紀）

ひとでありひとではないもの。

古代日本 大和には ひとでありひとではないものが 共棲していた。

たとえば ひかっていて飛ぶと尾のように見える。

土蜘蛛のひとびとは、ひかっていて飛ぶのではないかと想う。

たとえばオーブのように。

昔の日本には、肉体がひかりのように軽く飛ぶひとたちがいたと観える。

ほたるのようなひとびと。

目がひかると想う。

葛城山ふもと 一言主神社の水の流れている石のところでお会いした、土蜘蛛のような霊は、

子供 男の子のようであったと想う。 目がひかっていた。 用心深かった。 いまも土蜘蛛

や海蜘蛛の精霊たちが、生きてここにいる。 ひととの交流もまた深まるといいと想う。

蜘蛛たちは、神武天皇軍 大和朝廷に平定された。

葛城 高尾張邑から尾張にひとびとは移住した。

高天彦神社の近く、金剛山のふもとの邑である。

高天彦神社の前の原は（も）、高天原である説がある。

高天彦神社には岩があり、宇宙からいまも直接ひかりが降り注ぐ場所と感じる。

いわゆる宇宙と地球を直結するポータルのようなものが、今もあいている。

原初宇宙から高天彦神社の岩、高天原に、宇宙エネルギーが降りた場所のように感じる。

海蜘蛛のひとびとは、南から来た海人だろうか？

海にゆかりの深いひとびとで、スーパーナチュラル 水にもぐるなど海人の能力が発達していたと想う。

高天彦神社 高天彦のパワー

高天彦神社のエネルギーに触れると（たとえば宇宙のひかりの通り道である岩）、からだの変わるひとはいると想うので、変わるのがいやなひとは、高天彦神社は、ご神殿でお参りをして、あとは、いろいろなものに触れないほうがいいのかもしいかなと思います。

からだが変わる可能性があります。 わたし個人的には、左目がよくなってきていて、いまは右目に異常が出ています。 これを高天彦の神の怒りをかうようなことをしたと、とらえるか、自分が変わっていく（進化していく）プロセスで、必要なプロセスととらえるか、ですね？

左目は右脳につながっていて、左目がよくなっているのは、右脳の働きが活発になってきている兆しかもしれません。 リーディングの仕事で、直観、サードアイ、ビジョンを使うので、

右脳をよく使うようになりました。 ですので、右脳につながる左目がよくなるのは、理屈にはあっています。

右目の異常ですが、右目は左脳（知的分析する脳）につながっているといわれます。 リーディングの仕事をしていて、一番たいせつなのは、考えないでリーディングすることです。考えず、宇宙やひかり、地球からそのまま、あるがままのエネルギーを受信すること。

そのためには、考えるということ、できるだけ最小限にする努力をしています。 その努力の過程で、考えずにリーディングをする = 左脳をあまり使わずにリーディングする = 左脳につながる右目があまりよくみえない。 そういうつながりは考えられます。

ですが、目の手術はできるだけ先延ばしにしたいです。 宇宙のみなさんのアドバイスをききながら、ビジョン 視力 視野 というものと、つきあっています。

視力、視野は、両目だけで見ているのではなく、脳が観ている部分が大きいと想います。 ですから、右目のゆがみのようなものを、脳はおぎなえると思っています。 脳が状況に応じて見え方を Adjust 調整してくれると想います。

ですから、手術にいたらず、脳の調整で、それなりに視力が維持できる可能性が高いと見ています。 目医者さんとの定期的なアポイントメントをキープして、経過観察はしていく。 毎日の生活の中で、目だけではなく脳で見るということも、自分なりにしています。

用心深いひとは、高天彦では写真を撮影しないといます。 神にふれていろいろなさわりが
あるひとがいるようです。 神にふれたとして、からだにさわりが出たとして、より高次の神
とワークすることで、なにが起こっても、克服できると信じている。

たとえば高天彦がいて、わたしのうぶすなの神 あめのほあかり おおものぬし にぎはやひ
くにのそこたちも、一緒にいてくださる。 高天彦神社は金剛山の中腹にあります。 にぎや
はひは、高尾張邑にゆかりの深い神ですが、高尾張邑は、葛城山の中腹にあります。

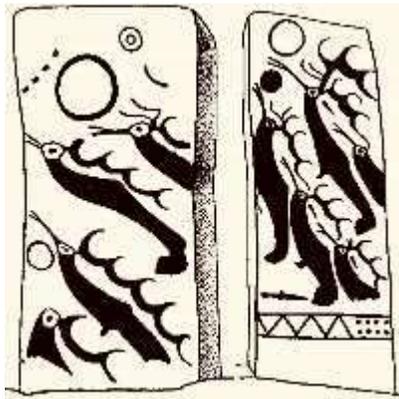
にぎはやひと、高天彦はお隣さん同士。 もしかして、同じものかもしれない。

だから、信じることはたいせつと想う。 生きてるといろいろなことがある。 どんなに健
康に気を使っても、寿命があるから、いつか死ぬ。 いつかなんらかのからだの疾患が起こっ
て死ぬプロセスにあるのだから、その時々におこるからだやこころの疾患に、必要以上に悩み
苦しまないようにしたい。

からだやこころに起こることを通して、瞑想し、ひかりの手当てをし、宇宙 ひかり 地球
神たち 宇宙存在たちとの、つながりがさらに深まり、互いの理解が深まればいいと想う。

愛 叡智 勇気の三拍子そろって、たましいのたくわえが増えればいいと想う。 たましいの
たくわえ（よきカルマ アクション）を蓄え、蓄え、ちから尽きたとき、わたしたちは死ぬ
（Call it quit）と想う。 寿命のあるからだを離れて宇宙に戻ると想う。

もののべ Flying Deer 満月の夜に飛ぶ鹿



モンゴル Moron 満月の夜に飛ぶ鹿

鹿は古代のひとびとに神聖な生命であった。

もののべのひとびとは、鹿を聖なる獣としていたと想う。

モンゴル Moron に満月の夜に飛ぶ鹿の石がある。

もののべのひとびとは、モンゴルから来たのかもしれない。

モンゴルにはすもうもある。

モンゴルと古代氏族のつながりは深いと想われる。

多くの氏族はモンゴル ユーラシア大陸の奥深くの出身かもしれない。

満月の夜に鹿は飛んで、月にいく。

そしてたぶん夜明けまでに地球に戻ってくる。

飛ぶ鹿たちの故郷は、月であったのかもしれない。

もののべのひとびとが、飛ぶ鹿のひとびととすると、もののべのひとたちの故郷は月であるかもしれない。

かぐや姫は月が故郷のようですが、かぐや姫のようなひとびとは、昔はたくさんいたのかもしれないです。

もののべの人々の祖霊は、にぎはやひ とされます。

子孫の誇り 子孫のパワー

祖先（神）の強さを継承して生きる。 未来に継承する。

あめのほあかりの子孫として、おおものぬし、にぎはやひ くにのそこたちの子孫として・・・

昔 葛城の高尾張邑から尾張へ移ってきたひとびと（多氏含む）の子孫として・・・

誇りを持ちたい。 強くありたい。

彼らの子孫として、誇り高く生きる。

なにがあってもあきらめず、今日できる精一杯のことをして、工夫して、クリエイティブに生きる。

パワーは戻ってくる。

先祖が持っていたパワー（スーパーナチュラル含む）は戻ってくる。

遠く離れたニューメキシコの村に住んでいるが、つながっている。

太古のパワーと、宇宙パワー、地球パワーとつながっている。

先祖とつながっている。

にぎはやひ、おおものぬし、あめのほあかり、くにのそこたち、もののべ、みなみなのエネルギー、パワーとつながっている。

わたしたちはみな祖霊とひとつ。 子孫ともひとつ。 みなつながっている。

うつっぼい気分 人生にいきづまった感じがする時

生きるのもなかなかたいへんな時あります。 仕事、家族、病気、人間関係・・・ いろいろなことがいきづまったりします。 わたし自身、うつっぼい気分を通ってきておりますが、生きています。 人生のいきづまり感を味わっています。 リーディングなどを通してなにかおやくにたてることがありましたら、メールをください。

目の動き

目の動きに変化があると宇宙と言われる。 それがなにを意味しているのか、いまのわたしにはわからない。 目の動きに変化があり、目の見え方も変わっているのだと想う。

宇宙のエネルギーの流れというものがあり、自分のたましいの進化の流れというものもある。流れに逆らわず、目の動きが変わり、視力、見え方も変わっていくならば、それに沿っていくしかないように思う。

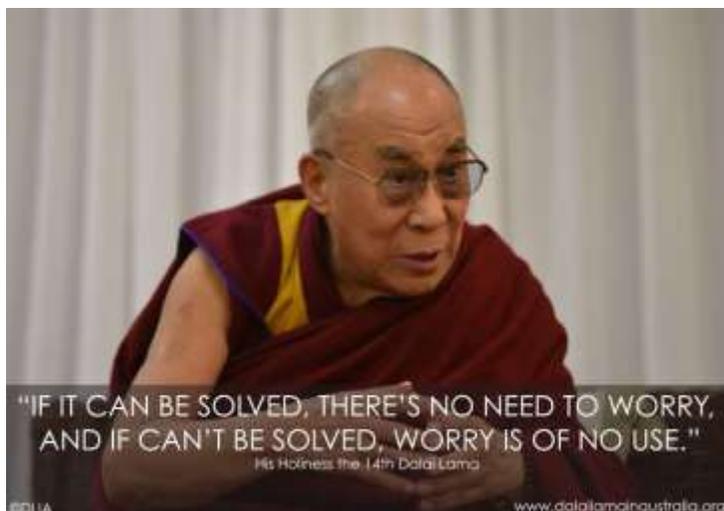
自分の目であり、自分の脳、からだなんです、自分のものでもないような気がする。たましいのものであり、宇宙のものである。

たましいはただ進化しただけなのだ。 きっと。 自分のエゴ（自我）というものは、たましいの願うところに従うしかないでしょう。 目の異変も、たましいが進化したいと願うそのドライブ（ひたすら前へ進もうとする熱意）につながっているような気がする。

わたしはあなた（わたしにたましい）についていくしかないです。 どうぞよろしく願いしますよ～～

Worrier to Warrior 心配者から勇者へ変身

ドラマの言葉 「解決することは心配するにあたらぬ。 解決しないことは心配してもしかたない」



心配のエネルギーは、観察にふりわけろ。 観察して、じっくりとわたしになにができるか思案する。 インスピレーションを得る。 アクションプランを整える。 実行する。 結果を見る。 問題が解決しない時は、観察 オブザベーションに戻る。

心配よりも、観察、インスピレーション、工夫、実行のひとになりつつある。 変化は実感している。

Worrier（心配者）から Warrior（勇者）へ変身中。

祖霊、祖先たちは勇者であった。 おとこもおんなも。

ナマステ 感謝

読んでくださってありがとうございます。

よろしければ感想を聞かせてください。



ひかり 後藤王重 ごとうきみえ

メール harmonion@gmail.com

WEB www.harmonion.com/japanese.html

フェイスブック www.facebook.com/profile.php?id=100000536784231